

定期テスト対策プリント 枕草子

春は(①)。 (②) 白くなりゆく(③)、少し明かりて、

(④) 雲の細くたなびきたる。

夏は(⑤)。 月のころは(⑥)、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほかにうち光て行くもをかし。雨など降るも(⑦)。

秋は(⑧)。 夕日の差して(⑨)いと近うなりたるに、(⑩)の寝所へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへ(⑪)。まいて(⑫)などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いと(⑬)。日入り果てて、風の(⑭)ひらがなで)、虫の(⑮)ひらがなで)など、はた言ふべきにあらず。

冬は(⑩)。 雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いと(⑰)。昼になりて、ぬるく(⑱)もていけば、火桶の火も、白き(⑲)になりて(⑳)。

定期テスト対策プリント 枕草子解答

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほかにうち光て行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日の差して山の端いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりてわろし。